

児童生徒が充実した学校生活をおくるために

スクールソーシャルワーカーを御活用ください

県中教育事務所

◇ スクールソーシャルワーカーとは……

学校・家庭・地域の中でさまざまな困難を抱える児童生徒やその家族が、自らの力で問題を解消していくための実践的なサポートを行います。学校だけでは解決できにくい生徒指導上の課題等に対して、関係機関と連携を図りながら、児童生徒や保護者の生活等に目を向け、その環境改善のために、**教育現場に福祉の視点**を取り入れて活動します。



イラストは各県教育委員会リーフレットより編集

◇ 学校が抱える児童生徒に対するさまざまな問題 …

- ▽ 家庭訪問をしても全く会えない
- ▽ 遅刻や欠席が多く、その理由が分からない
- ▽ 親が登校させない、または無頓着
- ▽ ケガが多い・遅刻が多い・暴言をはく
- ▽ 朝食を食べてこないことが多く、登校しても元気がない
- ▽ 教室から出て行ってしまう
- ▽ 諸費の未納が続いている
- ▽ 保護者の監護・養育力に課題がある、等

【個人や家庭状況】

- ◆障がい
- ◆経済的貧困
- ◆児童虐待
- ◆家族関係
- ◆「要保護」状況など

例えば、「自分勝手」？「わがまま」？「なまけ…」？

Aくんは、「困った子」、「暴力的な子」とされる。
気に入らないことがあると、すぐに手や足が出る。
何度も指導するが、行動はエスカレートするばかり……



スクールソーシャルワーカーの アプローチ・とらえ方

- ▽ 人の行動には**必ず何かワケがある**
- ▽ 「困った子」ではなく「**困っている子**」ととらえる
- ▽ 「暴力的な子」も虐待等の被害者では……。

行動の背景にある要因を見立てて、問題解決のための手立てを考えます

スクールソーシャルワークで大切にしていくこと



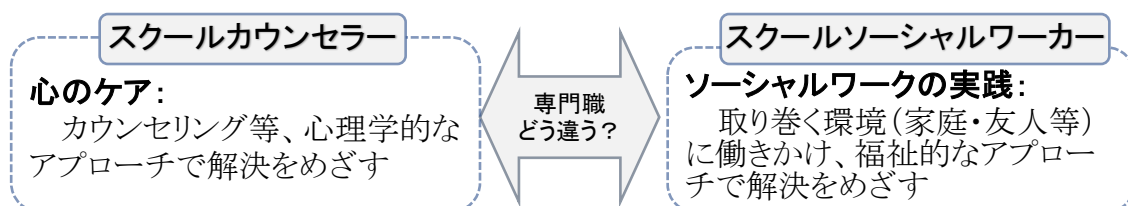
- i 児童生徒の**権利と最善の利益**を大切にしていくこと
- ii 児童生徒が置かれている**個と環境の相互作用・影響**に着目すること
- iii 学校内あるいは学校の枠を超えて**関係機関と連携**すること（**黒子の糸つむぎ**）
- iv どんな児童生徒にも**自己回復力・強み**があると考え、その力を引き出していくこと
- v 支援チーム体制を推進し、**学校力**を引き出していくこと

◇ スクールソーシャルワーカーの基本的な活動

- ◎ 学校や教育機関での面談や訪問活動
 - ・ 情報を収集し、具体的な援助の糸口をつくるために
- ◎ 関係機関へのつなぎ（連絡、代弁、介入、調整）
 - ・ 子どもへの直接支援、保護者や教員のニーズの代弁、地域機関との連携等
- ◎ 問題解決への関わり（援助体制構築）
 - ・ ケース会議での問題解決に向けた働きかけの提案、援助等

◇ スクールソーシャルワーカーの効果的な活用を図るために

- ① スクールソーシャルワーカーと学校とのパイプ役となる校内担当者の位置付け
- ② 校内担当者の役割
 - ・ 相談受付 ・ スクールソーシャルワーカーとの連絡調整
 - ・ 相談活動に関する計画立案、調整 ・ 情報管理 ・ ケース会議開催
- ③ 定期的なケース会議の開催
 - ・ 未然防止、早期発見の視点から ・ 地域関係機関等への出席要請
- ④ 相談援助活動の充実
 - ・ スクールソーシャルワーカーが校内で情報収集するための手段の確保
 - ・ できるだけ相談者本人が参加できるような会議の設定



※ めざしているのは、あくまで児童生徒の「個」の自立です！